

1 基礎分野

授業科目	外国語Ⅱ (ポルトガル語)	担当教員	外部講師 ソルト グスタボ	単位数 1	時間数 15	時期	2年次 9月～10月						
目的と目標	ポルトガル語を通して、その国の文化、日本との関係を知る。また、多文化共生の地域づくりについて学ぶ		1 ブラジルの文化、日本との関係がわかる 2 日常生活に使うポルトガル語がわかる 3 日本に住むブラジル人の生活がわかる										
回数	学習課題		内 容		方 法		担当教員						
1	ブラジルの文化		(1) ブラジルとはどういう国か		講義		外部講師 (ソルト グスタボ)						
2	日本とブラジルの交流		(2) ブラジルの文化 (3) ブラジル人の特徴 (4) ブラジル日本移民について (5) 日本に住むブラジル人の生活										
3	多文化共生の地域づくり		(1) 国際交流センターの活動				演習						
4			(2) 多文化共生の地域づくりとは										
5							試験						
6	ポルトガル語でのコミュニケーション		(1) 基本のあいさつ (2) 自己紹介と他人の紹介 (3) 短く簡単な会話										
7							試験						
8	試験		試験										
評価方法		筆記試験											
参考文献 と資料		資料 (当日配布)											
事前準備や 受講要件等		プロジェクトを準備する											
☆担当教員 の実務経験													

授業科目	造形美術	担当教員	外部講師 浅野 菊美	単位数	1	時期	1年次 4月～6月				
				時間数	30						
目的と目標	対象物の観察方法とバランス感覚を養うためにデッサンを修得する 立体感覚および美的感覚を養うために造形を修得する 色彩の基礎的事項を修得する										
1 対象物の外形と構成の観察方法を理解できる 2 造形における形態的、機能的美しさを理解できる 頭部および顔面の形態とバランスを描写できる 3 造形の基本技術を理解できる 4 色の属性と色彩について説明できる											
回数	学習課題	内 容	方 法	担当教員							
1, 2	石膏像デッサン 人物デッサン	オリエンテーション デッサンの書き方 石膏像と人物デッサン 石膏像をデッサンする 人物をデッサンする	講義 演習	外部講師 (浅野菊美)							
3, 4 5, 6 7, 8	頭像の製作	人物の頭像を粘土で表現する 頭蓋骨の形態と顔の形態 芯の作成と肉付け 頭像製作									
9, 10 11, 12	色と色彩	完成 色の表し方 (マンセルシステム) 三原色と混合 (減法と加法)	講義								
13, 14	色の属性	明度、彩度、色相 補色、対比 (面積、明暗、色相)									
15		評価・振り返り	評価								
評価方法		デッサン、頭像作品による評価									
参考文献と資料		デザインの色彩 (日本色研)									
事前準備や受講要件等		スケッチブック (B4 サイズ) 鉛筆 (4B、2B、H) 消しゴムを各自が準備持参すること 石膏像、画板など必要に応じて準備すること									
☆担当教員の実務経験											

授業科目	コミュニケーション論	担当教員 外部講師 早川 佳穂	単位数	1	時期	1年次 4月～5月					
			時間数	15							
目的と目標	他者の意見を理解し、自分の意見を相手に伝達するために、基本的知識、技能および態度を習得する。 1 コミュニケーションの定義と種類を説明できる 2 一方通行と双方通行のコミュニケーションを説明できる										
回数	学習課題	内 容		方 法	担当教員						
1, 2	コミュニケーションとは	人にとってのコミュニケーションとはなにか 他者を理解する 文化とコミュニケーション		講義	外部講師 (早川佳穂)						
3, 4	言語的コミュニケーション基礎と応用	自己紹介・他己紹介 双向コミュニケーション		講義 演習							
5, 6	ノンバーバルコミュニケーション基礎と応用	表情・ジェスチャー 空間行動									
7 8	試験	試験		試験							
評価方法	筆記試験及び演習評価 毎回の授業を評価する										
参考文献と資料	当日配布										
事前準備や受講要件等											
☆担当教員の実務経験											

授業科目	倫理学	担当教員	外部講師 竹内 章郎	単位数	1	時期	1年次 5月～7月					
				時間数	15							
目的と目標	名前は周知ながらも実はほとんど理解されていない優生思想（＝優生学）の本当の姿を通じて、倫理学的思考に接近すると共に、その具体例としての出生前診断及び「脳死」・臓器移植の現実を理解し、人間生命の在り方の深みを、生命自体に社会・文化の在り方が内在している点から感得してもらう。			1 優生思想とその具体的現実を通じて倫理的判断の基礎を学ぶ。 2 現代社会における優生思想を理解することを通じて、倫理に関する身近な課題について考える。 3 医療に関わる専門職業人としての倫理観を培う。								
回数	学習課題		内容		方法	担当教員						
1	ガイダンス、重症心身障がい者から学ぶ（資料1章）		(1) 生命に内在する社会・文化の在り方 (2) 病・障がいと健康・健常との対置問題		講義	外部講師 (竹内章郎)						
2	優生学の思想史（資料3章） 優生学の忘却・隠蔽の歴史		(1) 西洋思想の優生学：プラトン、ルソー等 (2) 日本思想の優生学：福沢諭吉、平塚等		講義							
3	法制度化された優生思想、福祉と優生学（資料4章）		(1) ナチスの先輩としての米英の優生政策 (2) 優生学的「福祉」、健康新政策と優生学		講義							
4	現代社会と優生学、優生学と学問の在り方（資料5章）		(1) 商業的優生学と能力主義との関係 (2) 優生学の克服と学問の在り方との関係		講義							
5	出生前診断と優生思想との関わり1（資料6章の前半）		(1) 出生前診断の導入と優生学との関係 (2) 出生前診断の技術的進化と優生学の位置		講義							
6	出生前診断と優生思想との関わり2（資料6章の後半）		(1) 人工妊娠中絶と出生前診断との関係 (2) 優生保護法：障がい者運動とフェミニズム		講義 (可能なら一部は映像視聴)							
7	「脳死」・臓器移植と優生思想との関わり（資料7章）		(1) 「脳死」に内在する心臓等の臓器移植 (2) 脳低温療法、見なし規定としての「死」		講義							
8	全体のまとめ		(1) 優生思想の深刻さとその克服の困難 (2) 日常生活に浸透する優生思想の在り方		講義							
評価方法		筆記試験またはレポートを評価する（文字数の指定など有）										
参考文献と資料		事前に（第1回目の講義開始日よりかなり前に）、資料を配布する。										
事前準備や受講要件等		配布した資料を各回の授業前に事前に熟読すること。第1回目の講義前から、この熟読を必ず行うこと。従って、資料の第1章を熟読した上で、第1回目の講義に臨んでもらうことになる。各回に熟読する資料の量はかなり多いことも承知されたし。										
☆担当教員の実務経験												

授業科目	医療と社会学	担当教員	外部講師 神戸 博一	単位数	1	時期	1年次 5月～7月	
				時間数	15			
目的と目標	<p>医療人としての役割を理解するために病気や医療について法律や経済、教育などの領域との関係をとらえた社会を理解する</p> <p>1 医療者にとっての社会学の意義が分かる 2 健康と病気の概念を理解できる 3 ストレスとストレスへの対処法が理解できる。 4 健康格差と経済、職業、教育の関係について関心が持てる</p>							
回数	学習課題	内 容		方 法	担当教員			
1	医療者の社会学について	はしがき、試験について 序章 社会学の成立		講義	外部講師 (神戸博一)			
2	健康・病気の見方 (第5章)	健康・病気の見方、とらえ方、変化						
3	ストレス (第5章)	ストレッサーとストレス、病気、対処						
4	健康・病気の社会格差 (第7章)	改裝、階級、エスニシティ、マイノリティ						
5	社会格差の諸相(第7章)	経済						
6		職業						
7		教育、社会格差への対処						
8	試験			試験				
評価方法		筆記試験						
参考文献と資料		基礎分野 社会学 (医学書院)						
事前準備や受講要件等		テキストの該当箇所を前もって読んでもらいたい						
☆担当教員の実務経験								

